

【議事要旨】第1回 AI ロボティクスに関する関係府省連絡会議

1 日時

令和8年1月16日（金）16:00～16:30

2 場所

内閣府合同庁舎8号館5階共用C会議室

3 出席者

＜議長＞

阪田 渉 内閣官房副長官補（内政担当）

＜副議長＞

伊吹 英明 経済産業省製造産業局長

＜主査＞

木村 聡 内閣官房日本成長戦略本部事務局長代理

福永 哲郎 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官

＜構成員＞

西山 英将 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）

横山 征成 内閣府政策統括官（防災担当）

山田 好孝 警察庁生活安全局長

藤原 朋子 こども家庭庁長官官房長

田辺 康彦 消防庁次長

坂下 鈴鹿 【代理】文部科学省審議官（研究振興局及び高等教育政策連携担当）

榊原 毅 【代理】厚生労働省大臣官房審議官（医政、口腔健康管理、
精神保健医療、訪問看護、健康、生活衛生、災害対策担当）

黒田 秀郎 厚生労働省老健局長

堺田 輝也 農林水産省大臣官房技術総括審議官

寺本 恒昌 【代理】経済産業省商務・サービスG 商務・サービス参事官

細川 成己 経済産業省大臣官房審議官（産業保安・安全担当）

奥家 敏和 経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）

中村 晃之 国土交通省大臣官房技術総括審議官

角倉 一郎 環境省環境再生・資源循環局長

嶺 康晴 防衛省防衛装備庁技術戦略部長

＜オブザーバー＞

布施田 英生 総務省国際戦略局長

4 議事要旨

○開会

○冒頭挨拶

開会にあたり、阪田内閣官房副長官補から挨拶があった。

(阪田内閣官房副長官補)

- 人口減少・少子高齢化に伴う構造的な人手不足は我が国経済・社会活動が直面する最大の構造的課題の一つ。
- こうした局面を打破するには、ロボット開発によるイノベーションの創出、ロボット普及による全産業での DX 推進、ロボット活用による新たな付加価値の創出が不可欠。2015 年には「ロボット新戦略」を策定し、政府としてロボット政策の推進に取り組んできたところ。
- 世界では、AI の加速度的な発展を背景に、自律的に作業を行うことができる AI ロボットの研究開発競争が進展。我が国においても、AI ロボティクスを実現させ、誰もが使いやすく、多様な現場で活躍できるロボットを、国内の人手不足に悩む様々な分野に広く浸透させていくことが必要。
- そのため、AI ロボティクスの社会実装により目指すべき将来の経済・社会の姿を踏まえながら、AI ロボティクスの開発の促進と様々な分野においてロボットの導入を進めるための官民における普及拡大を一体的に図るため、新たな AI ロボティクス戦略を策定する。
- 各省庁においては、所管分野における現場と対話を行い、各需要分野における、ロボット活用への期待や具体的なニーズ、導入課題を整理いただきたい。その上で、各需要分野におけるロボット活用の方向性や、政府として講ずべき対策をとりまとめていただくことを期待している。戦略の検討にあたっては、経済産業省を事務局として全体の検討を進め、今年度内に本戦略を取りまとめていただきたい。
- 本関係府省連絡会議において取りまとめた戦略は、今後日本成長戦略会議の AI・半導体 WG へ報告していく。

○議事

- 本会議の開催について

伊吹経済産業省製造産業局長から、資料 1～3 に基づき、本会議の趣旨説明を行い、資料 1 のとおり会議の開催についての申合せ案が承認された。

- AI ロボティクス戦略の検討の進め方について

奥家経済産業省大臣官房審議官（商務情報政策局担当）から、資料 4 に基づき、ロボット市場の動向や年度内に策定する AI ロボティクス戦略の方向性について、資料 5 に基づき、本日の会議を含めた今後のスケジュールについて、それぞれ説明がなされた。

○出席者からの発言

出席者より、下記のような発言があった。

(福永内閣府科学技術・イノベーション推進事務局統括官)

- 内閣府にて取りまとめた AI 基本計画について、今夏に向けて改訂作業を進めており、データ戦略や制度改革、人材育成なども盛り込んでいくと考えており、AI ロボティクス戦略とも一体として進めていきたい。
- 各府省が連携し、取組を結集することで世の中を変えていく成果を出したい。

(阪田内閣官房副長官補)

- 未だ存在しないニーズに気づき、それを作り出すことは大変だと思うが、経済産業省主導で各府省とともに進めてほしい。

(木村内閣官房日本成長戦略本部事務局長代理)

- 本会議の成果物は日本成長戦略会議の AI・半導体 WG でも取り上げる。AI・半導体 WG の検討テーマは供給サイドだけでなく需要サイドの支援策も考えており、需要の掘り起こしに向けてロボットの導入における障害になっているような既存のルールの見直しについても検討を進めていただきたい。

○閉会

以上